



eyes  
| 2016 Vol. 86 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY  
NEWS MAGAZINE

いよいよ  
今秋9月に  
リニューアル  
オープン!

大規模改修工事のため現在休館中の東京都写真美術館は、今秋9月のリニューアル・オープンまで、いよいよあと5ヵ月あまりとなりました。現在、職員は、展覧会準備のほかに、改修された美術館への作品・図書の搬入、備品の用意、環境の整備など、オープンのための準備をすすめています。いましばらくの休館となりますが、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。リニューアル・オープンの概要は4月中旬頃に、ホームページで発表いたします。

ホームページの  
メンテナンスと更新について

東京都写真美術館のホームページが、2016年4月中旬より新しくなります。それにとりまなうメンテナンスのため、3月下旬～4月中旬まで、過去の展示情報などアーカイブページの閲覧を休止いたします。あらかじめご了承くださいませようお願いたします。新しくなるホームページでは、リニューアル・オープンの展覧会情報などを順次アップしていく予定です。どうぞご期待ください。

第8回恵比寿映像祭  
「動いている庭」を開催しました

「アーツカウンシル東京・フェスティバル」事業の一環として、平成28年2月11日(木・祝)から20日(土)までの10日間、第8回恵比寿映像祭「動いている庭」を実施し、41,321人(\*地域連携含む)の方にご来場いただきました。通常の本メイン会場である東京都写真美術館の改修にともなう休館を機に、恵比寿ガーデンプレイス内の各会場と、日仏会館を中心に、複数の会場で、展示・上映・オフサイト展示・ライブイベント・シンポジウム・地域連携プログラム・ガイドツアーなど多彩なプログラムを展開し、26の国と地域から総計で91名のアーティスト・ゲストを迎え、映像を中心に多様な表現と視点を提示するフェスティバルとなりました。

第8回恵比寿映像祭

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2016



メイン会場であるザ・ガーデンホールの展示風景

表紙) 中谷美二子《霧の庭 “ルイジアナのために”》  
Photo ©Takaaki Arai



中島興氏によるラウンジトークの様子(2月16日、ザ・ガーデンホール)



SjQ++、入江陽+銅金裕司、古館健、The SINE WAVE ORCHESTRAを迎えたライブ、「動いている庭 — ライヴ編」の様子(2月19日、ザ・ガーデンルーム)



クワクボリョウタ<風景と映像>(日仏会館ギャラリー)



藤木淳(Primitive Order - 組成される感覚 / 世界2006-2016) (STUDIO38)



「快楽の国」三部作上映後Q&Aのベン・ラッセル監督(2月24日、恵比寿ガーデンシネマ)

ほかにも、開催中の様子は恵比寿映像祭ホームページ「Yebizoブログ」でご覧いただけます。  
恵比寿映像祭公式ホームページ [www.yebizo.com](http://www.yebizo.com)

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

特別賛助会員 キヤノン(株) (株)資生堂 (株)ニコン 特別支援会員 (株)キタムラ キヤノンマーケティングジャパン(株) 大日本印刷(株) 凸版印刷(株) 富士フイルム(株) (株)リコー 支援会員 (株)I&S BBDO (株)AOI Pro. (株)アサツー ディ・ケイ 旭化成(株) 朝日新聞社 (株)朝日新聞出版 朝日生命保険相互会社 アサヒグループホールディングス(株) 朝日放送(株) アスクル(株) (株)アートよみうり (株)アマナ (株)岩波書店 ウェスティンホテル東京 (株)潮出版社 内田写真(株) (株)栄光社 (株)エスジー (株)ADKアーツ NECディスプレイソリューションズ(株) (株)NHKアート NHK営業サービス(株) (株)NHKエデュケーション (株)NHKエンタープライズ (株)NHKグローバルメディアサービス (株)NHK出版 (株)NHKビジネスクリエイト (株)NHKメディアテクノロジー NTT都市開発(株) エプソン販売(株) エルメス財団	(株)Office Mam オリックス(株) オリンパス(株) (株)オンワードホールディングス 花王(株) カンオ計算機(株) 鹿島建設(株) (株)KADOKAWA カトーレック(株) 神奈川新聞社 カルピス(株) (株)キクチ科学研究所 キッコーマン(株) (株)紀伊國屋書店 ギャラリー小柳 共同印刷(株) (一社)共同通信社 協和発酵キリン(株) (株)久米設計 興亜硝子(株) (株)弘亜社 (株)廣済堂 (株)講談社 (株)光文社 (株)国書刊行会 (株)コスモインターナショナル (株)コーセー コダック(同) 小山登美夫ギャラリー(株) (株)ザ・アール サッポロ不動産開発(株) サッポロホールディングス(株) 三機工業(株) 産経新聞社 サントリーホールディングス(株) (株)サンライズ (株)ジェイアール東日本企画 JSR(株) JXホールディングス(株) ジェイティービー印刷(株) (株)シグマ (株)実業之日本社 信濃毎日新聞社 (株)写真弘社 写真の学校／東京写真学園 チャンネル(株)	(株)集英社 (株)主婦と生活社 (株)主婦の友社 (株)小学館 松竹(株) 信越化学工業(株) (株)新潮社 (株)スタジオアリス (株)スタジオエムジー (株)スタジオジブリ スターツ出版(株) 住友化学(株) 住友生命保険相互会社 (株)スリーボンド (株)生活の友社 セイコーホールディングス(株) (株)青春出版社 成美製版(株) 積水ハウス(株) 全日本空輸(株) ソニー(株) 損害保険ジャパン日本興亜(株) 第一生命保険(株) 第一法規(株) (株)ダイケングループ 大成建設(株) (株)大丸松坂屋百貨店 大和証券(株) (有)タカ・イシイギャラリー 高砂熱学工業(株) (株)高島屋 (株)宝島社 (株)竹中工務店 玉川大学芸術学部 (株)タムロン (株)丹青社 (株)中央公論新社 中外製薬(株) 帝人(株) (株)TBSテレビ デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株) (株)テレビ朝日 (株)テレビ東京 電源開発(株)	(株)電通 (株)電通テック (株)東亜建設工業(株) 東映(株) 東急建設(株) 東京海上日動火災保険(株) 東京急行電鉄(株) 東京工芸大学 東京新聞・中日新聞社 (株)東京スタディオ 東京造形大学 東京総合写真専門学校 東京テアトル(株) 東京都競馬(株) (株)東京ドーム (株)東京ニュース通信社 (株)東京美術倶楽部 (学)専門学校 東京ビジュアルアーツ 東京メトロポリタンテレビジョン(株) (株)東芝 東宝(株) (株)東北新社 (株)東洋経済新報社 東洋熱工業(株) (株)トキワ (株)徳間書店 戸田建設(株) (株)トータルプランニング オフィス トヨタ自動車(株) (株)トロンマネージメント (株)ニコイメーjingジャパン 日外アソシエーツ(株) 日油(株) 日活(株) (株)日経BP 日光ケミカルズ(株) 日産自動車(株) (株)日本カメラ社 日本空港ビルデング(株) 日本経済新聞社 (株)日本広告社 (公社)日本広告写真家協会 日本コルマー(株)	(株)日本色材工業研究所 日本写真印刷(株) (公社)日本写真家協会 (公社)日本写真協会 日本写真芸術専門学校 (一社)日本写真文化協会 日本大学芸術学部 日本たばこ産業(株) 日本テレビ放送網(株) (株)ニッポン放送 日本ロレックス(株) (株)ニューアートディフュージョン ノーリツ鋼機(株) (株)博報堂 (株)博報堂DYメディアパートナーズ (株)博報堂プロダクツ (株)バス・コミュニケーションズ (株)ハースト婦人画報社 バナソニック(株) (株)バラゴン ハリミキ ぴあ(株) ビービーメディア(株) 北海道 写真の町東川町 東日本旅客鉄道(株) 光写真印刷(株) (株)美術出版社 (株)日立製作所 (株)日立物流 (株)ビックカメラ (株)ビデオプロモーション ヒノキ新薬(株) (株)ピラミッドフィルム (株)ファーストリテイリング 富国生命保険相互会社 富士重工業(株) (株)フジテレビジョン (株)双葉社 (株)プラザクリエイト (株)プリンスホテル (株)ブルーヒルズ (株)フレームマン (株)文化工房 (株)文藝春秋	(株)ベネッセホールディングス ベルボン(株) 北海道新聞社 (株)ホテルオークラ東京 (株)堀内カラー 本田技研工業(株) 毎日新聞社 (株)マガジンハウス 丸善(株) (株)マンダム (株)みずほ銀行 三井住友海上火災保険(株) 三井住友信託銀行(株) 三井倉庫ホールディングス(株) 三井不動産(株) (株)三越伊勢丹 三越恵比寿店 三菱地所(株) 三菱製紙(株) 三菱倉庫(株) 三菱電機(株) 三菱UFJ信託銀行(株) (株)ミルボン 武蔵大学 明治安田生命保険相互会社 森ビル(株) ヤマトロジスティクス(株) 横河電機(株) (株)吉野工業所 (株)ヨドバシカメラ 読売新聞社 ライオン(株) ライカカメラジャパン(株) リコーイメーjing(株) リシュモン ジャパン(株) モンブラン (株)良品計画 (株)ロボット (株)ワコウ・ワークス・オブ・アート (株)ワコール (株)ワッツ オプトキーオー
---	---	---	--	---	--

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人

(平成28年3月現在・五十音順)

## 平成27年度 東京都写真美術館 新規収蔵作品 のご紹介

本年(平成27年度)に収集された東京都写真美術館の新規収蔵作品より、主な作家と作品をご紹介します。

近年、美術館の役割は多岐にわたりますが、それらは作品収集と展覧会開催の両軸に支えられています。学芸員は、限られた予算を最大限有効に活用し、いま当館が収集すべき作品を見極めていくために、日々の研鑽とネットワークを生かし、作品調査と収集提案を行ってまいります。そして、重点収集作家から新進作家まで、写真・映像文化を理解する上で重要な作品を、幅広く収集しています。

そのなかで当館の支援会員である団体・企業の皆様の多大なるご援助は、散逸が危惧される作品収集のために、欠かすことのできないご支援です。特に映像・写真の黎明期や、幕末～明治の初

期写真は、専門的かつ継続的な研究が必要であり、多くのお客様にとっても関心の高いジャンルです。今年度も、専門美術館ならではの作品を収集し、平成27年3月末現在の総収蔵作品数は33,393点となりました。作品の収集にあたり、都民や支援会員の皆様をはじめ、ご支援・ご協力をいただきましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

本年度に収集された作品には、今秋のリニューアル・オープン後に、いち早くお披露目を予定しているものも多数あります。秋からの展覧会の詳細は、4月中旬頃から、順次ホームページにてお知らせいたします。どうぞご期待ください。

### ジョン・ハーシェル

**(HERSCHEL, John Fredrick William, 1点)**

1792年、英国バークシャーのスラウに生まれる。父は天王星や赤外線放射の発見で知られるウィリアム・ハーシェル。1813年、ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジを卒業。1816年から直径18インチ(460mm)の鏡を用いた焦点距離6,100mmの反射望遠鏡を作って天文学を研究し、土星や天王星の衛星の命名などを行い、1820年には父と共に王立天文学協会に設立メンバーとして参加した。写真の分野では、ネガポジ方式の発明で知られるウィリアム・ヘン



参考図版:カメラルシーダ 東京都写真美術館蔵

リー・フォックス・タルボットと交友があり、多くの助言を与えている。1839年にはハロゲン化銀の溶媒としてハイポが有効であることを実験で証明し、これを定着液に使用すると画像の保存性が高いことをタルボットとルイ・ジャック・マンデ・ダゲール(ダゲレオタイプの発明者)に伝えている。また、この年に“Photography”という概念や“Negative”と“Positive”という言葉を使用して論考を発表した。1842年にはサイアノタイプ(青写真)の発明をしており、写真発明家としての側面もある。女性写真家ジュリア・マーガレット・キャメロンの被写体としても知られる。本作は1816年にカメラルシー



A cave in the cliff on beach, Dawlish, Devon 1816年 ジョン・ハーシェル(HERSCHEL, John Fredrick William)  
※この作品は当館支援会員の援助により購入いたしました。

# 平成27年度

## 東京都写真美術館

### 新規収蔵作品の

### ご紹介

作家名(点数は平成27年度の収蔵作品数 ※購入・寄贈を含む)

#### 平成27年度新規収蔵作品数

計1,805点(購入・寄贈含む)

① 写真作品1,422点 (国内1,354点、海外68点)

② 映像作品8点

③ 写真資料375点 ※うち支援会員購入は1点

※東京都写真美術館の収集の基本方針は、ホームページでご紹介しています。また、9月からの展覧会詳細は、4月中旬頃から順次ホームページにてお知らせいたします。

このほかに、下記の作品・資料をご寄贈いただきました。心より厚く御礼申し上げます。

<b>写真作品</b>	福村不二雄(2点)、大東元(225点)、木村恒久(755点)、小久保善吉(2点)、白川義興(9点)、清野賀子(26点)、塚本剛治(2点)、長島有里枝(1点)、美影堂(1点)、船山克(1点)、堀野正雄(120点)、松本路子(15点)、吉江雅祥(1点)、PAYGNARD, Marc(1点)、RAULT, Jean(12点)、GEIBERT, Ron(18点)
<b>映像作品</b>	瀬田なつき(2点)
<b>写真資料</b>	大東元(210点)、岡上淑子(1点)、木村恒久(114点)、森田亜雄(12点)、吉江雅祥(5点)、作家不詳(32点)



《土曜の夜 ディスコはねても 池袋・ロマンス通り》、  
《FLASH UP》より  
ゼラチン・シルバー・プリント 1975年

#### 倉田 精二

(KURATA Seiji, 25点)

1945(昭和20)年、東京生まれ。東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。ワークショップ写真学校の第一期生として森山大道教室に入校。池袋の夜の盛り場にごめく人々の姿を、強烈なストロボ光で捉えた「ストリート・フォトランドム・東京1975—1979」で、1979年に第5回木村伊兵衛写真賞を受賞(翌年「Flash Up」として刊行)。一貫して都市に視点を向ける。代表作は「フォト・キャバレー」(1983年)、『大亜細亜』(90年)、『トランスアジア』(95年)、『ジャパン』(98年)、『クエスト・フォー・エロス』(99年)、『都市の風景』(2015年)ほか。本年、『AKB 80's』(2016年)がアメリカで刊行される。



《つぶれかかった右眼のために》  
16ミリフィルム(3面マルチプロジェクション) 1968年

#### 花代

(HANAYO, 15点)

1970(昭和45)年生まれ。大学中退後、東京の向島で半玉修業を開始。1980年代から芸子、モデル、ミュージシャンなど写真以外のジャンルでも活動し、1996年に初の写真集「ハナヨメ」(新潮社)を刊行した。主な個展に「花代展 ウツシ・ユメクニ」(バルコギャラリー、2000年)、『Hanayo』(パレド・トーキョー、02年)、『花代』(ギャラリー小柳、08年)、『Berlin』(タカ・インシギャラリー・京都、13年)、『かげろうのやうに』(森岡書店、15年)。主な写真集に『MAGMA』(赤々舎、08年)、『ベルリン』(月曜社、13年)など。

#### 松本 俊夫

(MATSUMOTO Toshio, 5点)

1932(昭和7)年、名古屋生まれ。映画監督・映像作家・映画理論家。1956年にPR映画「銀輪」でデビュー。新理研映画を退社後「記録映画」「映画批評」等の雑誌で理論家として活動しつつ、『安保条約』『西陣』等のドキュメンタリー映画を手がける。1968年に松本プロダクションを設立。ATG(日本アート・シアター・ギルド)と提携した『薔薇の葬列』で劇映画に進出。その後『修羅』等の劇映画作品と並行して、『つぶれかかった右眼のために』などの実験映画やビデオアートの製作、批評活動を行う。



《Emerald(Ruined)》発色現像方式印刷 2008年

#### アピチャップン・ウィーラセタクン

(Apichatpong WEERASETHAKUL, 9点)

1970年、タイ・バンコク生まれ。コンケン大学で建築を学び、母国で建築士を務めた後、シカゴ芸術学校で映画制作を学ぶ。1999年、プロダクション「Kick the Machine」を設立。既存のシステムに属さず、アマチュアを多用し、ドキュメンタリーとフィクションを往來する作品を多々発表。長編映画《ブンミおじさん》で2010年カンヌ国際映画祭最高賞(パルム・ドール)を受賞。映画監督として活躍する一方、1998年以降、現代美術作家として映像インスタレーションを中心に旺盛な活動を行っている。



《The Third Sex》より  
ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P) 2002年

#### ダヤニータ・シン

(SINGH, Dayanita, 8点)

1961年、インド、ニューデリー生まれ。ニューヨークの国際写真センターで写真を学ぶ。卒業制作が最初の写真集「ZAKIR HUSSAIN」(1986年)となる。墓地に暮らすユナック(去勢された男性)のモナ・アハドを主題にした写真集「Myself Mona Ahmed」(2001年)は彼女の転機となった。インドの上流家庭の肖像<Privacy>(04年)やインドの進歩と伝統を詩情豊かに綴った<Go Away Closer>(07年)などで評価を得て、第7回光州ビエンナーレ(08年)、マニフェスタ7(09年)、ベネチア・ビエンナーレ(11年と13年)に選出。ヘイワード美術館(13年)とフランクフルト近代美術館(14年)、シカゴ美術館(14年)での大規模個展など国際的に活躍している。



《Gama》より イंकジェット・プリント 2009~2012年

#### オサム ジェームス 中川

(Osamu James NAKAGAWA, 21点)

1962年、米国ニューヨークに生まれ、1963-77年、東京在住。1993年、ヒューストン大学修士課程修了(写真学)、同年、同大学で教鞭を執り始める。現在はインディアナ大学写真学専攻長、インディアナ在住。1980年代より写真家として活動を始め、代表作にシリーズ<Drive in Theater>など。2006年から断続的に沖縄に滞在し、日本とアメリカで育った独自のアイデンティティを追究する作品を制作。09年、グッゲンハイム フェローシップ、10年、第26回東川賞新人賞など受賞。



#### 松江 泰治

(MATSUE Taiji, 7点)

1963(昭和38)年、東京都生まれ。1987年、東京大学理学部地理学科卒業。1996年、第12回東川賞新人作家賞受賞。2002年、第27回木村伊兵衛写真賞受賞。12年、IZU PHOTO MUSEUMにて個展「世界・表層・時間」を開催。同年、第28回東川賞国内作家賞受賞。13年、第25回写真の会賞受賞。主な作品集に「JP-22」(大和ラヂエーター製作所、06年)、『cell』(赤々舎、08年)、『LIM』(青幻舎、15年)など。

《JP-01 55》、《JP-01》より

発色現像方式印刷 2014年

#### 佐内 正史

(SANAI Masafumi, 15点)

1968(昭和43)年、静岡県生まれ。1995年、第4回写真新世紀優秀賞受賞。1997年に「生きている」(青幻舎)でデビュー。2002年、『IMAP』(佐内正史事務所)で第28回木村伊兵衛写真賞受賞。08年に自主写真レーベル「対照」を設立。以降、数多くの写真集を自身のレーベルより発表している。09年、川崎市岡本太郎美術館にて個展「対照 佐内正史の写真」を開催。15年には、作家・舞城王太郎との共著「深夜百太郎 入口」、『深夜百太郎 出口』(ナナログ社)が連続刊行された。

《生きている》より 発色現像方式印刷 1995年



《山下洋輔 2》、《Early Works》より ゼラチン・シルバー・プリント 1969-1974年

#### 山崎 博

(YAMAZAKI Hiroshi, 60点)

1946(昭和21)年生まれ。60年代末に劇団「天井桟敷」に関わり、当時の前衛芸術家たちを記録した。以降写真家として活動。1973年からは実験映画も手がける。長時間露光による太陽の光跡を視覚化した代表シリーズ(HELIOGRAPHY)(1978-83)や《櫻》(1990-95)など、ミニマルで方法的な作品表現で知られる。1983年、第33回日本写真協会新人賞を受賞。1994年、第26回伊奈信男賞を受賞。2001年より東北芸術工科大学教授。2005年より武蔵野美術大学教授。



《Tokyo and My Daughter》より 発色現像方式印刷 2006年

#### ホンマ タカシ

(HOMMA Takashi, 48点)

1962(昭和37)年東京生まれ。1999年、「東京郊外」で第24回木村伊兵衛写真賞受賞。2011~12年、個展「ニュー・ドキュメンタリー」を国内3つの美術館で開催のほか、15年「Seeing itself-見えないものを見る 大宰府アートプログラムVol.9」など、国内外での展覧会多数。東京、子供、郊外などをテーマに、見るとは何か、写真とは何かを問う作品を発表している。主な写真集に「Babyland」(リトル・モア/95年)、『東京の子供』(リトル・モア/01年)、『Tokyo and My Daughter』(Nieves/06年)、『Trails』(マッチアンドカンパニー/09年)など。著書に『たのしい写真 よい子のための写真教室』(2009年、平凡社)。東京造形大学大学院客員教授。



《flowers》発色現像方式印刷、イंकジェット・プリント 2015年

#### 蛸川 実花

(NINAGAWA Mika, 2点)

1972(昭和47)年生まれ。1997年、多摩美術大学卒業。96年に「第7回写真ひとつば展」でグランプリ、「第13回キヤノン写真新世紀」で優秀賞を受賞。2001年に第26回木村伊兵衛写真賞を受賞。08-10年に東京オペラシティアートギャラリー一他で個展開催(全国4館を巡回)。15年に原美術館で個展開催。当館では03年に「日本の新進作家展」展に出品した。新規収蔵作品は「永遠の夏」や「FLOWER ADDICT」といった「花」をモチーフとする代表的シリーズから新たに構成した新作。



《The New Year in Japan》コロタイプ印刷に手彩色 1966年

#### 高木 庭次郎

(TAKAGI Teijiro, 2点)

明治初期一没年不詳。京都生まれ。写真師・高木吉兵衛(?-1882)の嗣子。横浜で玉村康三郎(1856-?)に師事する。1907(明治40)年頃には、外国向けに日本の風俗文化を紹介する写真帖を神戸三宮にあった玉村写真館から出版。コロタイプ印刷やガラス製スライドに手彩色をほどこした写真で好評を得た。1914(大正3)年頃までに玉村写真館を継承し、1920年代終わり頃まで「T.TAKAGI KOBE」の高標で活動した。



《Marabu》より 発色現像方式印刷 2005年

#### 野口 里佳

(NOGUCHI Rika, 8点)

1971(昭和46)年生まれ。1994年、日本大学藝術学部卒業。95年に「第5回写真ひとつば展」でグランプリ、96年「キヤノン写真新世紀」で年間グランプリを受賞。2001年に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、11年にIZU PHOTO MUSEUMなど個展多数。02年に第52回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。04年よりベルリン在住。光を重要なテーマとする写真作品を手がけ、国際的にも評価を受ける。



《みかん》、《日常らしさ》より 発色現像方式印刷 2002年

#### 安村 崇

(YASUMURA Takashi, 5点)

1972(昭和47)年、滋賀県生まれ。1995年、日本大学藝術学部写真学科卒業。1999(平成11)年、第8回写真新世紀グランプリ受賞。2005年に写真集「日常らしさ」を発表。主な個展に「安村崇 写真展」(バルコミュージアム、05年)、『1/1』(MISAKO&ROSEN、12年)、『楽園創造(パラダイス)』(芸術と日常の新天地—vol.6 安村崇)展(gallery a M、13~14年)。主なグループ展に「コモン・スケープ」(宮城県美術館、04年)、『六本木クロッシング:日本美術の新しい展開2004』(森美術館、04年)など。

二〇一六年秋、  
また恵比寿から。

ただいま休館中です。  
2016年秋、リニューアル・オープン予定。

Closed for renovations.  
We will reopen in fall 2016.

2016.4.15(金)までのお問い合わせ

### 東京都写真美術館リニューアル準備室

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-12

電話 03-3251-3700(代) (平日9:30~18:15)

※土曜、日曜、祝祭日を除きます

※リニューアル準備室では、展示・閲覧等は行っておりません

2016.4.18(月)からのお問い合わせ

### 東京都写真美術館

[www.syabi.com](http://www.syabi.com)

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話 03-3280-0099(代) (平日9:30~18:15)

※土曜、日曜、祝祭日を除きます

※美術館は現在休館中です。展示、閲覧等は行っておりません